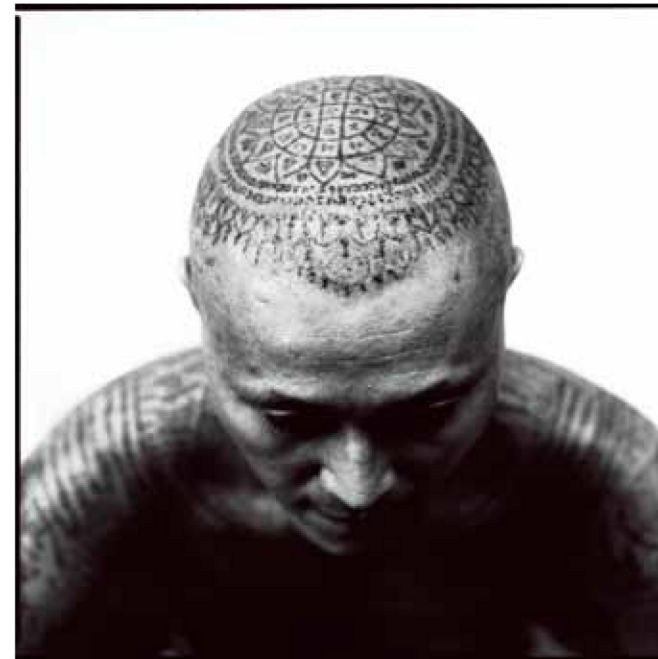
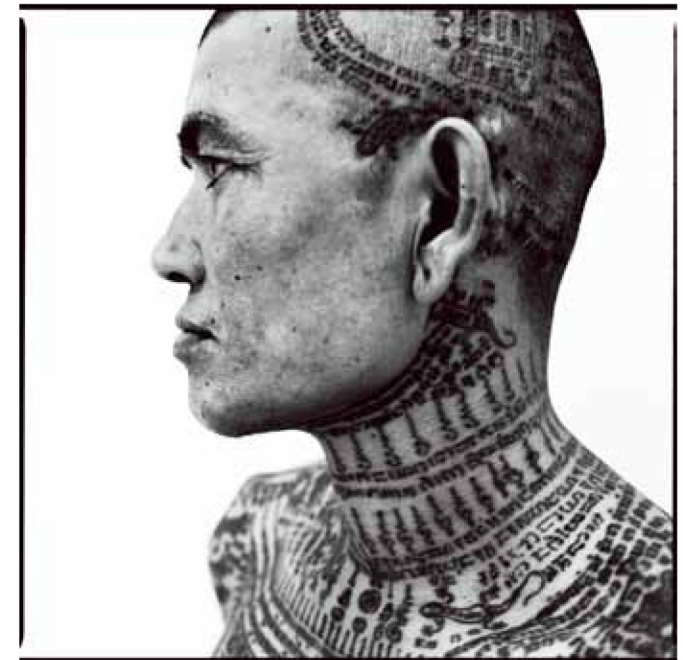
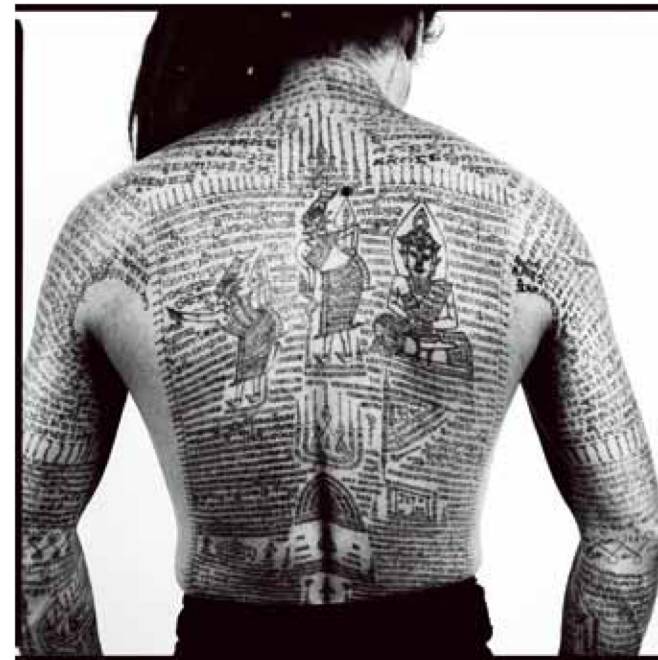


バンコクのタクシー運転手。仏教の経典や聖なる動物の絵を刻む人が多い

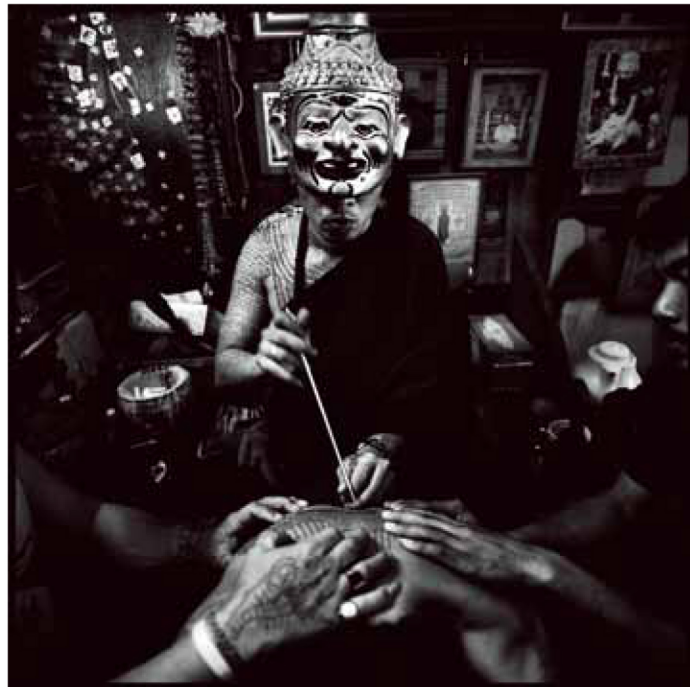


タイには魔よけや願掛けのために
宗教モチーフのタトゥーを体に入れる伝統がある

CARVING SPIRITUALITY
タイの精神世界を体に刻んで

PHOTOGRAPHS BY CEDRIC ARNOLD

Picture Power



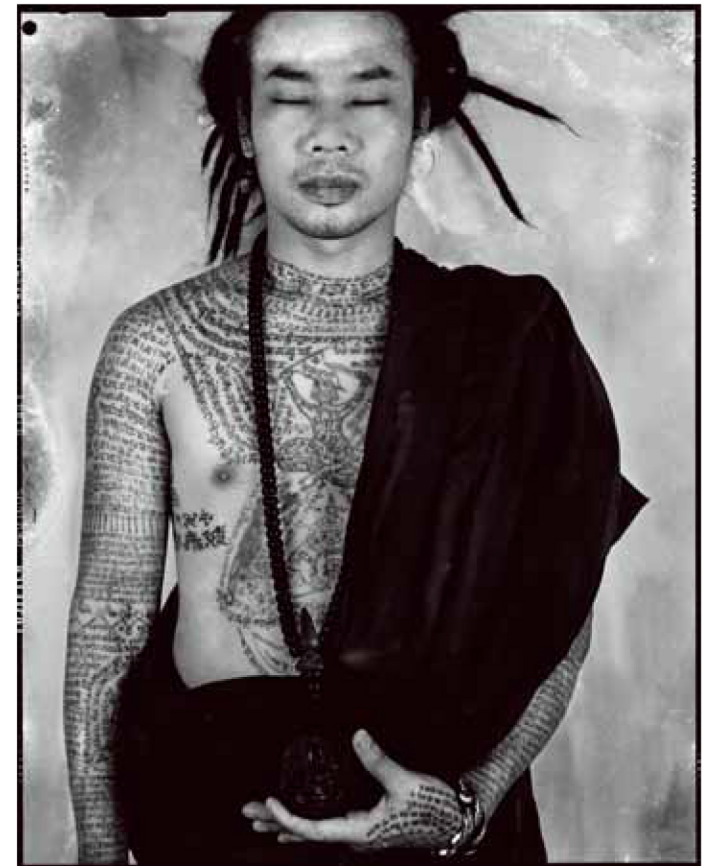
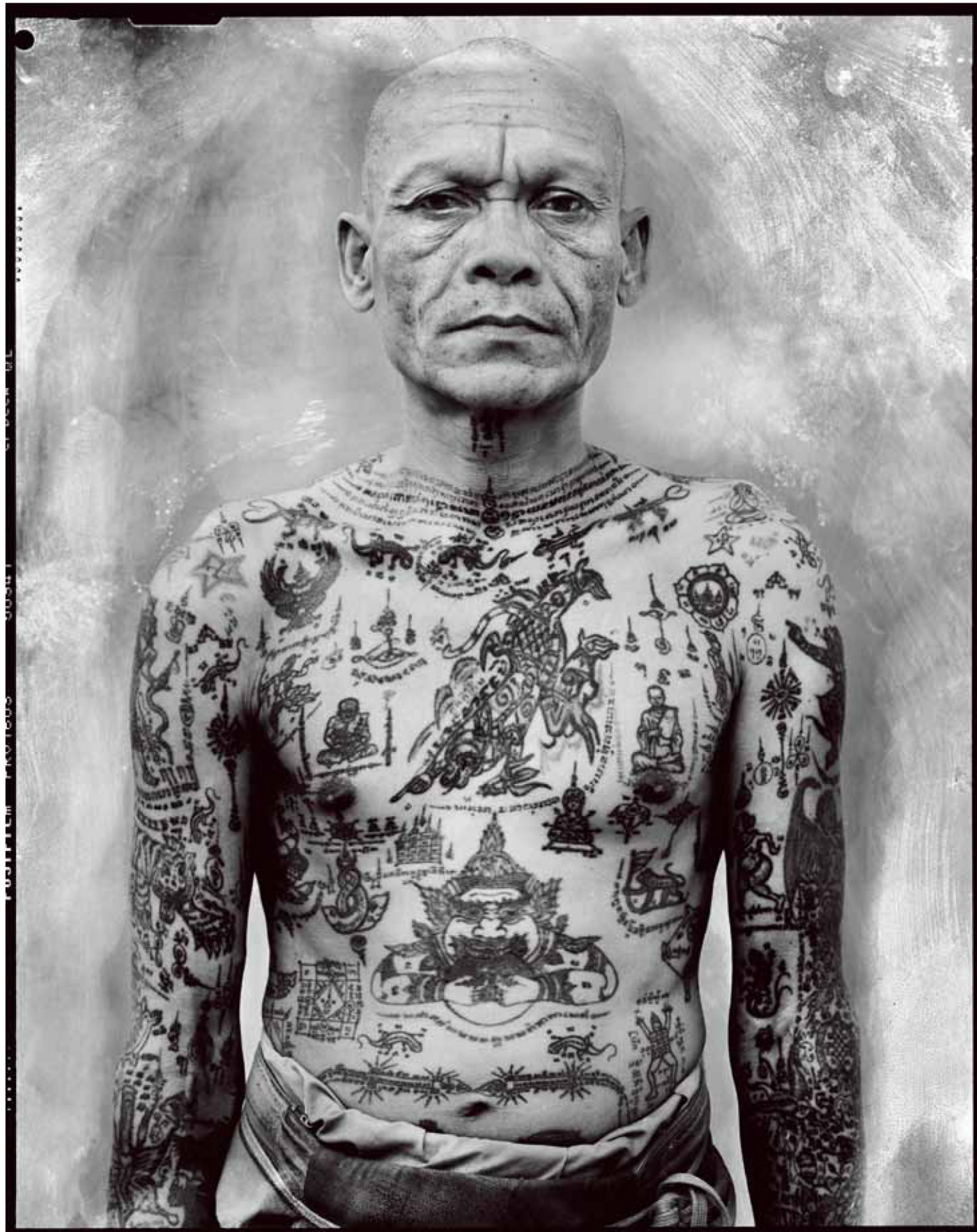
タトゥーを入れる彫り師(上)、
彫り師は宗教指導者として赤ん坊への祈禱なども行う(下)



撮影:セドリック・アーノルド
フランスの大学を卒業後、ロンドン、北アイルランドで写真家としての活動を始める。最近の10年は東南アジアに拠点を置き、英サンデー・タイムズ・マガジン、独シュテルン誌など欧米の有力誌や新聞などで活躍

Photographs by Cedric Arnold

Picture Power



アユタヤの僧侶(左)、バンコクの彫り師(上)。
タトゥーは危険や災難から身を守るとされている

仏教やヒンドゥー教の神々、猛獣や幾何学模様におびたしい呪文……複雑な宗教モチーフで埋め尽くされているのは、男たちの体だ。背中や腹、腕や頭まで、あらゆる場所にタトゥーが刻み込まれている。
タイ社会では伝統的に、宗教的な力や幸運をもたらすものとしてタトゥーが浸透している。魔よけや願掛けのため、そして信仰心や力を誇示するために、男たちは痛みを耐えて墨をのせた針を体中に受ける。
彼らに魅了されたのが、写真家のセドリック・アーノルド。大判カメラとボラロイドを手にタイを回り、僧侶や兵士、タク

シー運転手や彫り師といったさまざまな男たちを白黒の肖像写真に収めた。写真は精巧な作品としてのタトゥーだけでなく、彼らの世界観まで映し出す。「タイ社会が数々の宗教の要素を統合し、複雑な精神世界をつくり上げた証した」と彼は言う。
だが近代化の波がタイの伝統に影響を与えつつある。都市部のビジネスマンがタトゥーを敬遠するようになる一方で、タイを訪れた外国人がファッションとして楽しむようになった。
変化する社会の中で男たちの体に刻み込まれた印は、永遠に消えることのない彼らの精神世界を物語る。

■